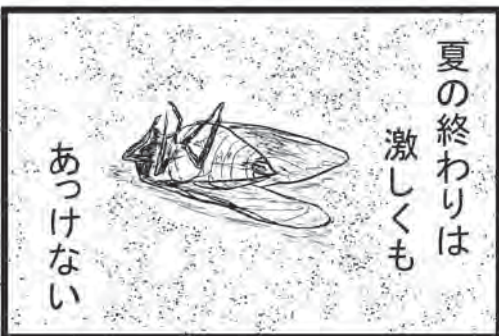
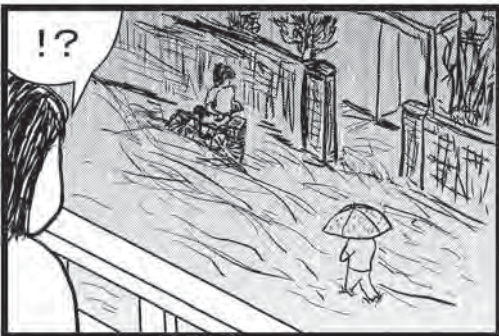


さわ通

〒114-0034 東京都北区上十条3-3-16 TEL 03-3908-8011 homepage http://www.8011.jp/

もう虫の音が。では、彼岸花は時期に合わせてちゃんと咲くのか？
それどころか、独唱会迫る！ 11月には「草原」三部合唱発表
みなさん、がんばれ！ 若返る秋ですよ～っ！

さわごえ君 第8話
「夏の終わり」



リクエスト月間③

庭の虫の音が音楽だった
手入れに精を出す父の姿

八月中旬の急に涼しくなった日。夜になると、待ってましたとばかりにコオロギの鳴き声。数十年前の子どもの頃はもっと賑やかに鳴き立てていたように思います。その虫の音が秋の夜長の寂しさを紛らわしてくれる調べでした。戦時中野菜を自家栽培した畑の跡が残る庭で、草木の手入れに精を出す父の姿が思い出されてきました。

四月のチャリテイ・リクエスト月間でも、子どもの頃の情景を思い浮かべていた方がたくさんいらっしゃいました。

『赤とんぼ』『春の小川』『故郷』などはその代表格の唱歌。メッセージには「田舎で育った」とか「野山を走り回りトンボなどを追いかけた」とありますが、東京の一角・板橋の我が家周辺でも戦後の十年ぐらいは麦畑が広がり小川が流れていたんですよ。そうそう、「おわれてみたのは赤トンボ」ってところ、トンボの立場になって「追われていたのは」と解釈していたのはわたしだけじゃなかつたよ。

つたよ、リクエストカードにも同じことが書いてありました。正しくは「姉さんの背中に」負われて見た」ですね。

『月の沙漠』を「童心に返って」と言われた方はきつとロマンチックな少女だったのでしょう。『ずいずいずつころばし』は元氣な女の子。五、六歳の頃聞いた『雪の降る街を』が思い出という人は、かなりのおませちゃん？ 訊ねたら、そうではなくて北海道小樽のバスターミナルで流れていたというんですね。そう言われると、このバスターミナルの情景がわたしの目にも浮かんでくるようです。

幼い頃の戦争体験。これも忘れ得ないこと

お客様の中にはわたしよりも年配の方がいます（チョットだけ）。そういう方の思い出の曲は灯火管制の暗闇の中で歌った『故郷を離るる歌』、中国から引き揚げてきた辛い思い出と重ねて『蘇州夜曲』『りんごの唄』など、ずばり戦争体験ですね。

そして、『星影の小径』は幼い頃にお母さんが鼻歌で口づさんでいた曲、『揺籃のうた』は「姉妹が多い家族の中で母のオルガン伴奏で、みんな仲良く歌っていました」と、ミルクの香りがしてくるような思い出を語ってくれました。（つづく）

第3回 ゆるゆるサロン ゲスト：フルート奏者 **渡辺宏美**

8月31日(水) 20:00~22:00 3,000円 詳細別紙

恒例第8回独唱会 9月13日(火)・15日(木) 多彩な選曲で楽しめませう

9月6日・7日・8日は、まっちゃんお休み

当日は オールリクエストDay になります

<さわうたカレンダー>

- 太い数字=さわうた
- 白抜き数字=まっちゃんお休み
- =ふりうた
- =プチコーラス
- ◎ =ゆるゆるサロン
- ☆ =第8回独唱会

2011(平成23)年 8/28~9/24

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24